Column

志の輔落語　伊能忠敬物語「大河への道」映画化
映画「大河への道」2022年5月20日 全国公開

公益財団法人日本測量調査技術協会　参与　堀野 正勝

脚本：森下佳子　＊「JIN-仁」「女城主 直虎」など
監督：中西健二
プロデューサー：小滝祥平、加藤悦弘ほか
監修：星埜由尚、堀野正勝

わが測量・地図業界で「伊能忠敬」を知らない人はいないでしょう。今から約200年前の1821年に日本初の実測による日本地図・伊能図を完成させた人物です。地図は極めて精密で、明治以降昭和の初めまで、国家地図のベースとなっていました。しかし、実は伊能忠敬は1818年に亡くなっていたのです。

千葉県香取市役所では、観光促進として地元を盛り上げるために、“大河ドラマ”の開発プロジェクトを立ち上げました。主人公は郷土の偉人である伊能忠敬！しかし、脚本作りの最中に、ある驚くべき事実を発見してしまいます。なんと伊能忠敬は、日本地図完成の3年前に亡くなっていました！（前記参照）

「伊能忠敬はドラマにならない。地図を完成させていないんだ！」「え。じゃあ、誰が？」舞台は江戸の下町へ。弟子たちに見守られ、伊能忠敬は日本地図の完成を見ることなく亡くなった。動かぬ師を囲んですすり泣く声が響く中、ある人物が意を決して発言する。

「では、今しばらく先生には、生きていただきましょうか…」忠敬の志を継いで地図を完成させるために、弟子たちによる一世一代の隠密作戦が動き出す。そこには、歴史に埋もれた、涙なしには語れない感動のドラマがありました。

出演は、中井貴一（主演）、松山ケンイチ、北川景子、岸井ゆきの、山崎　努　ほか

原作：立川志の輔「伊能忠敬物語－大河への道－」＊2021年4月に行われた伊能図完成200年記念事業でも落語会が開催され、多くの方に観覧いただきました。

以上が本映画のあらすじと主な関係者ですが、元国土地理院院長の星埜由尚氏と不肖私・堀野正勝（元国土地理院測図部長、元測技協事務局長）の2人が、上記の通り、本映画の製作に当たり、監修を行いましたので、足掛け4年間にわたる関りの足取りを簡単に記載しましょう。

2019年夏に映画製作の準備に入り、その年の秋、プロデューサーから連絡がありました。意を受けて国土地理院への映画製作の協力要請を行うとともに、12月には、国土地理院「地図と測量の科学館」及び前庭で伊能測量の実演を含む打ち合わせを行いました。プロデューサー、監督、脚本家、カメラマン等数人に、歩測の方法、導線法を中心とした伊能測量の方法等について技術的指導を行いました。

2020年1月からは、香取市（佐原）の伊能忠敬記念館の協力を得て、伊能忠敬関連の資料見学と体育館を使用して伊能大図の展開などを行いました。京都（松竹撮影所）の美術担当、CG担当プロデューサー等が参加し、江戸城大広間での伊能図展開のイメージづくりを行いました（展開は1月31日実施）。

2020年2月中旬には、「令和の伊能大図」の試作お披露目会を行うなど、着実な準備を進めてきましたが、新型コロナ感染症の拡大に伴い、残念ながら映画撮影が1年延期となりました（当初は2020年5月スタート予定）。

明けて、2021年4月には、測技協も参加して、伊能図完成200年記念事業（講演会、伊能図展示、落語会、伊能測量実演・体験等）が行われ、映画関係者多数が来られ、ちょっとした勉強会となりました。星埜、堀野はここでも、伊能測量・伊能図の説明・指導を行いました。

昨年の2021年8月には、約1月をかけて、映画の撮影が京都撮影所に於いて1年遅れでやっと行われました。その後、編集を経て、12月末には、映画の初号試写会が行われ、星埜、堀野の二人が東京・五反田の松竹撮影所に招かれ、内容の確認等が行われました（志の輔師匠も同席）。映画のエンドロールのクレジットには、前記のように、監修:星埜由尚、堀野正勝が入りました。同時に本格的な広報（PR）活動がスタートしました。

いよいよ、本年2022年5月20日より松竹系映画「大河への道」が全国で劇場公開されます。豪華キャストによる一人二役の笑いと感動の《歴史発見》エンタテイメントです。是非、ご覧ください。なお、映画公開に先立ち、本年4月20日には、映画原作本「大河への道」が、河出文庫より出版されました（税別価格680円）。

右記アドレスは、映画「大河への道」の予告動画です。　https://movies.shochiku.co.jp/taiga/